

そうぜんじ便り

19世 俊諦和尚筆

第125号

平成28年お盆号

臨濟宗 宗禅寺
建長寺派

住職 高井正俊
副住職 高井和正

羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

ご先祖様や大自然への感謝の真心をお伝えする施餓鬼法要
本年は神社の宮司さんによるお話がございます。皆様のご来山をお待ちしております

セガキ 施餓鬼大法要

◆十三時 御詠歌 受付は十二時より

講話 「ご先祖様のお姿」

◆十四時 施餓鬼大法要

茨城県つくば市
千勝神社宮司 千勝良明師

7月15日(金)

○お布施 (施餓鬼供養料と付届け) は封筒の通りです。

○東日本大震災・熊本大地震復興支援、観音募金継続中です。

○「羽村とうろう流し」は八月六日(土) 十八時半からです。宮の下運動公園です。

販売は七月三日(日) 九時から、十五日にもお分け致します。供養料は千円です。

○宗禅寺御詠歌講、サンガの会、護持会、寺子屋委員会(地域創造文化講座) 元気に活動中です。参加されたい方、大歓迎です。禅センター活用して下さい。

○お盆の早朝坐禅会に是非お越し下さい。七月十三日〜十六日、毎朝六時から七時までです。

施餓鬼大法要のあらまし

12時 受付開始 受付は一般、新盆、とうろうと三カ所あります。

1時 御詠歌奉詠 1時20分 講話 「ご先祖様のお姿」
千勝神社宮司 千勝良明師

2時 施餓鬼大法要並びに創建400年記念法要
・近在、法縁のある和尚様による荘厳な大法要です。
・御詠歌、施餓鬼和讃を参加者全員でお唱えします。
・和尚の読経、水向けと施米(餓鬼に水とお米を施します)
・ご参列の皆様へ水向け、施米をしていただき、御先祖様に感謝の気持ちをお届けします。

3時 和尚、総代様から御礼のあいさつがあります。
・餓鬼旗(供養の目印)をもらってお墓参り。一軒に一本です。

お仏壇に手を合わせ、今ここにあることを感謝しましょう。

宗禅寺創建四百年

今年、皆様の菩提寺・宗禅寺がこの川崎村に建立されて、実に四百年の正當の年にあたります。寺では、この佳節にちなみいろいろな計画をしています。

檀信徒の皆様にあためて報告します。

一、創建四百年事業のスタートを本年とし、記念法要を七月十五日の施餓鬼法要に合せて行う。

二、記念事業は、必要に応じて行う。

・ 四月八日の花まつり、琴の演奏がそのスタート。百人の参加。

・ 六月十一日のフラメンコライブが第二弾。二百六十人の参加。本堂満員。

・ 以下、企画。どうぞご要望を！

三、宗禅寺地域文化創造講座始動。

9月より月一回、仏教の勉強、地域文化創造のための勉強、著名人の講演など色々企画しております。一緒に勉強していきます。

四、記念事業―建築等

① 本堂廊下の大幅な拡張・増築。

② 山門まわりの改築と、身障者用トイレの新築。

③ 本堂前庭園の改修。

④ 薬師堂の修復。

先ず、晋山式までに本堂の廊下を広げ、その後、徐々に進めていきます。

五、宗禅寺二十一世・高井和正和尚の住職

就任式・晋山式を来年の五月二十七日

(土)に行います。稚児行列も行います。

正俊住職も鎌倉から帰ってきました。これから、皆様方のご協力をいただいて創建四百年事業をすすめていきます。このような素晴らしい時に出会えたことを喜びに思っています。これからもお寺の繁栄のみならず、地域や檀信徒の幸せを実現できる寺にしていきたく思います。和正和尚共々宜しくお願い致します。

※八月二十七日(土)午後四時 宗禅寺を支えて下さる会の合同で、住職の鎌倉帰山報告会・納涼会を致します。

宗禅寺創建四〇〇年 記念事業第一弾

宗禅寺花祭り

去る四月八日、お寺にて花祭り法要を開催しました。花祭りは仏教の開祖、お釈迦様の誕生日であります。毎年お寺では花御堂(はなみどう)の真ん中にお釈迦様の仏像を安置し、甘茶をかけて供養をしていました。この頃は、訪れる皆様も少なくなっ



中根喜美子様による生田流箏の演奏。大変有り難く、深謝申し上げます。

ておりましたが、大野哲夫総代長の鶴一声によりまして、本年より盛大にお祝いをすることになりました。

当日は百名ほど集まって下さり、皆で一緒に手を合わせてひと時を過ごしました。

法要と副住職の法話、御詠歌、そして当山檀信徒中根三規夫様の令夫人、喜美子様とご家族お弟子様によります生田流箏の生演奏を楽しんでいただきました。ご両親が眠るお寺での演奏ということで、お忙しい中、皆様でお越し下さいました。大変有り難く、深く感謝申し上げます。花供養として桜の生花が天川紀子さんから奉納されました。来年からも継続的に花祭り法要を皆様と楽しみたいと思っております。よろしくお願い致します。

宗禅寺創建四〇〇年 記念事業第二弾

フラメンコライブ

六月十一日土曜日午後、お寺の本堂が二百七十名の皆様に埋まりました。住職とかねてよりのご縁がございました遠藤あや子

様、小林伴子様にお願いをして実現致しました。

本堂の床が心配の種となりましたが、薬師講の秋山一男様が専用の簡易舞台を用意して下さい、無事公演ができました。他にも音響設備をフジデン様、事前の打ち合わせ



満員の会場。本堂雨戸を完全に閉めて行いました。

せには薬師講会長を始め、たくさんの皆様が集まって下さり圓成することができました。見事な歌声と演奏、踊りのリズムが一体となり、御本尊様も御先祖様もお喜びくださったと思います。御協力をいただきました皆様、ありがとうございました。



カンテとギターとコントラバス。間近で聴けて贅沢な時間を過ごしました。また、バイレ(踊り)は小林伴子様。ラストに真っ白な衣裳で登場。舞いに圧倒されました。

第18回 宗禅寺春の文化展

文化展も十八回を迎えました。今回の特別展は青梅市在住の水墨画家「白浪（はくろう）」先生の作品展を致しました。奈良東大寺、本山建長寺、京都建仁寺などに多くの作品を奉納している著名な先生でしたが、青梅玉泉寺様の甚大なるご協力のもとに実現できましたことを報告申し上げます。また、展示場所の照明を以前より明るくしたり、様々な改善も見られました。実行委員の皆様、出品して下さった皆様、観覧して下さった皆様、改めて御礼を申し上げます。また、お近くで芸術活動をされている皆様がありましたら、出品のお声掛けをしていただくと有り難く存じます。

◆日程

平成二十八年三月十九～二十一日

◆実行委員会

二回——二月六日・三月六日いずれも日曜日

◆事前準備

三月十八日午後一時。参加者一同、般若心経

読経。住職、総代長、実行委員長挨拶。

◆特別展 水墨画家 白浪先生

「白浪画伯の世界」作品二十三点

◆一般作品出品者 百八名

◆作品数 二百九十一点

◇美演 五味 建雄さん 折り紙工芸

出品者の皆様

(順不同・敬称略・誤字・脱字・記載もれ等ございましたらお許し下さい)

◇フラワーアレンジ

天川 紀香 四点

◇パッチワーク

小暮 翠子 三点

水村クニ子 一点

◇陶芸

渡辺 清孝 一点

中根ヨネ子 七点

内田有里子十五点

◇折り紙

五味 建雄 四点

中野 徳枝 三点

木目込み人形

島田 淳子 四点

◆手作りバック

宇津木睦子 六点

◆織物

金子 治枝 六点

◆古紙造形

磯貝 幸子 一点

◆編み物

大浦 千織 二点

市村 陽子 一点

大久保白枝 一点

黒埜 文子 三点

前池 幸子 三点

清水 恒子 五点

島田セツ子 二点

沢本 良江 一点

◆尺八

坂井頼利

◆尺八演奏

坂井頼利・水村 辰也

加藤紀代・木村 則男

◇絵画

大野 哲夫 一点

北沢 秀郷 二点

吉野 早苗 二点

早川 幸男 二点

関根 晃 三点

内田有里子 一点

高橋 信吾 二点

宮田 照子 二点

渡辺 清孝 一点

◇仏画

関谷 達夫 一点

関谷 和子 一点

◆フィッシュモデル

高橋 信吾 一点

◆木版画

小柳 祥子 一点

◆木彫

新井 達矢 五点

柴田 久和 三点

伊藤 幸貴 二点

久米 一寿 一点

高橋 勝雄 一点

加藤 紀代 一点

川幡きく江 一点

久保田昭夫 二点

大野万寿美 一点

梅林 孝治 一点

梅林 春男 一点

吉田 尚弘 一点

稲田多喜男 一点

片野多 斉 一点

◇書道

中村 青秀 二点

新村 彩翠 二点

長屋 茂子 一点

市川 和子 一点

井上とく子 一点

高橋和津子 一点

森元 玲子 一点

上田 弥生 一点

原島 温子 一点

佐藤 禮子 一点

中村 容子 一点

割田まつよ 一点

早川 幸男 二点

渡辺 結衣 一点

足立 道代 一点

小澤 千夏 一点

◆篆刻

中野 三矢 三点

◆絵手紙

木村美代子 五点

関根 隆子 三点

桜井千恵子 三点

菅井 清子 三点

川久保倭子 三点

戸塚 孝江 三点

村松 律子 二点

三浦 幸子 三点

山口 桂子 四点

原田 朝子 二点

中野 敏子 二点

◆俳句

中野つたえ 五点

宗禅寺十二月 一点

芭蕉を読む 一点

雨倉 朝三 二点

中野 満子 二点

中根三重子 二点

野島 順子 二点

中根 元 二点

中野おさむ 二点

田村 章 二点

杉原功一郎 二点

雨倉 孝雄 二点

中野 良一 一点

中里 美恵 二点

◆友禅染物

海和 綾子 一点

◆川柳

新井クニ 五点

中根 尚子 五点

◆写真

雨倉 久一 三点

山田 天正 二点

佐藤 禮子 二点

吉野 敬子 三点

小林美恵子 三点

磯貝 充宏 二点

◆職人の技(左宮)

水村 辰也 一点

黒漆喰の衝立

◆造形

伊藤 武司 一点

◆クリスマスローズ

中野 祐司十一

◆豆板

中根 忠一 一点

◆故中根昌一追悼展

書道 六点

篆刻 五点

写経 二点

○鎌倉から友情出品

鎌倉彫 三点

鎌倉たみ子 三点

◆書道

石河 静子 一点

林 敦子 一点

川上真理子 一点

◆写真

水田 俊之 五点

◆ポスター

川崎西の子供達

ためき和尚通信

宗禅寺の半鐘

突然のご帰山



びつくり仰天、ありがたし”

六月十四日、かつて戦争の折に国に供出していたお寺の半鐘が突然舞い戻って来ました。島田文庫長に調べていただき、確かに昭和二十年三月に供出された記録があるようです。静岡県葵区梅ヶ島町にある宝月院というお寺のご住職、景浦和尚さんがわざわざ軽トラックを走らせ、宗禅寺まで直接届けて下さいました。

実は長年に渡り、宝月院の地元の消防団で使用されていたようで、お役御免となり、消防団関係者の方が地元のお寺である宝月院に持ってきたとのこと。景浦和尚さんは息子さんに半鐘を調べさせ、鐘に刻んである銘から宗禅寺のことが分かり、わざわざ届けて下さったのです。

前もっての連絡なども一切なかったので、

住職を始め、皆で大変驚いている次第でございます。当日は急なことながら、大野総代長と中野総代にお寺に駆けつけていただき、半鐘帰山の法要をさせて頂きました。

半鐘は第九世玉翁和尚代のもので、「當村檀家善男善女念仏講中」とあり、禪宗の



▶「武州多摩郡小宮領川崎阜 栗王山 宗禅寺」の銘アリ

寺院しかない羽村にも、念仏講が存在していたようです。

今年のお施餓鬼法要では帰って来ました半鐘を鳴らして使用したいと考えております。また、平常、見える場所に置いておきますので、お寺にお越しの際は是非ご覧ください。



▶左から 中野総代、大野総代長、宝月院景浦和尚、当山住職、島田文庫長 半鐘帰山法要の後で

寺門清風 (住職日誌)

建長寺から帰山して、半年が過ぎました。本や書類の整頓、諸片付けもほぼ終りました。『建長寺―そのすべて』も夏には発刊、鎌倉での二十四年間がまとまります。宗禅寺創建四百年事業、どんな具現化しています。寺からの文化創造に邁進中です。お力をおよせ下さい。

- 宗禅寺護持会、彼岸の掃除をして下さる。住職高校の四季の会帰山祝。 3 / 12
- 鎌倉桜の会で「私と桜と建長寺」の話。東慶寺鎌禅会、仏光録、講話(横田老師)。大拙居士五十回忌相談。 3 / 15
- 鎌倉学園中学、卒業式。鎌倉禅研究会、応供堂満員七十人。 3 / 17
- 鎌倉学園、終業式。朝礼で理事長退任の挨拶、花束をいただく。宗禅寺、春の文化展、搬入・飾り付け。 3 / 18
- 鎌倉より文化展見学のお客様十人。 3 / 19
- 文化展に大学の仲間五人来山。 3 / 20

○春の文化展終了。臨時総代会(晋山式、創建四百年の件など)打上二十人。 3 / 21

- 寺、ハスの植え替え、十三鉢。 3 / 22
- 宗禅寺創建四百年記念講座開設のプランニング。多摩文化…。五年の計。 3 / 28
- 津久井清雲寺黙然和尚十七回忌。 3 / 29
- 禅センター、鎌倉からの資料整理ほぼ終了。鎌倉からお客様三人。小宴。 3 / 30
- 青梅寿々喜屋で地区和尚様、私の総長退任祝いをして下さる。和正和尚の晋山式五月二十八日決定。鎌倉禅も。 4 / 1
- 池田先生、古希論集、再生と祈り、原稿書き始める。 4 / 2
- 宗禅寺、大和園さん、中庭造作、完成。飯能・宗林寺さん本堂落慶式。 4 / 5
- 禅センターで、今までの名刺整理。 4 / 7
- 館先生から結婚の報告。花まつり、盛大に、琴のライブ百人。祝宴三十人。 4 / 8
- 箱根湯本・富士屋ホテルにて、鎌倉学園理事長退任祝賀会。 4 / 9
- 湯島・麟祥院にて小川隆先生『臨濟録』を読む会。萬成園にて小宴。 4 / 10

○鎌倉日本花の会で、コマツ結城農場見学。帰りに宗禅寺にて小宴。 4 / 12

- 鎌倉塾第四回例会、カヤック柳澤大輔さん、建長寺にて。 4 / 13
- 渋谷東急にて「シャングリラ」淑子さんと。鎌禅会南嶺老師「仏光録」 4 / 14
- 寺、タンス等片付け始める。ヤマサの奥様来山。寺子屋委員会勉強会。 4 / 15
- 六本木ヒルズカフェで、禅って何、スペーストーク。盛況で中身濃し。 4 / 16
- 宗禅寺で未来図俳句大会六十人。鎌倉で宗教者会議。 4 / 17
- 梅林さん父子、鎌倉の机・荷物宗禅寺へ運んで下さる。ありがたし。 4 / 18
- 鎌倉にて、鎌魂懇談会。 4 / 19
- 鎌倉禅研究会、ホータン・奥健夫・高橋秀栄各先生、参加者百人に迫る。 4 / 21
- 宗禅寺、庫裏片付け大作戦始動。 4 / 22・24・25・26・5 / 2・3・5・6……
- 「再生と祈り」原稿完成。人間長福寺、鹿苑全貴・直美さん結婚式。 4 / 29
- 西東京臨済会、熊本救援托鉢。川崎のみ

- 参加、皆は連休アケ迄！ 4 / 30
- 湯島麟祥院「臨濟録を読む会」 5 / 2
- 鎌倉・浅野さん地藏コーン持参。 5 / 6
- 建長寺にて親戚、清川勝也・悠さん結婚式、鉢の木にて祝宴。 5 / 8
- 宗禅寺総代全員で諸土地の検分、越生岩井屋にて遅い昼食。総代さんに創建四百年のあらましを報告、了承。 5 / 9
- 高校友人、五十嵐光枝さん三人来山。 5 / 11
- 京都「禅―心と形―」展に。川辺・野口さんと一献。次の日、花園大学「臨濟録国際学会」しっかり勉強。 5 / 12・13
- 越後湯沢、いとこの高井一子さん納骨。久し振りに緑のふるさとへ。帰山して薬師講役員会で、創建四百年等の報告、協力依頼をする。 5 / 14
- 副住職和正和尚、京都妙心寺高等布教講習会へ、祈奮闘。寺務室片付けを始める、和正和尚のために。 5 / 15・17
- 東慶寺、鎌禅会。『禅堂生活』頂戴。 5 / 17
- 鎌倉。鎌コン昼食会、鎌倉禅研究会、特別講師は三浦浩樹さん。美学へ。 5 / 19
-
- 「鎌倉入門」鎌倉春秋社発行 5 / 20
- 建長寺無限ノ清風講座で芳沢勝弘先生の「白隠禅画」拝聴。帰山して中野圭子さん通夜で、尼僧緑川明世さんと会う、不思議なご縁。大聖院との。 5 / 20
- 宮島大聖院吉田大裕君来山。玉泉寺新命夫妻、緑川明世さんとエルムンドで楽しく飲食。人のつながりは大。 5 / 23
- 鎌倉の友人、羽村・堀本・織田さん来山、隠寮で接待。談論風発。 5 / 24
- 寺、フラメンコライブ現場打合せ、関係者八人。高崎洋子さんより、宗禅寺ホームページ開設の嬉しい報告。 5 / 25
- 寺、織田百合子さんの会で、鎌倉に想う。でお話。後、懇親会三十人。 5 / 26
- 横須賀市民大学で「鎌倉・建長寺文化」のお話。後、昼食会十人。 5 / 31
- 宗禅寺、寺子屋教室、開山さま。 6 / 1
- 円覚寺夏期講座、光明寺柴田哲彦台下のお話。鎌倉宗教者会議理事会、私の建長寺総長退任に伴い、事務総長・理事の交代が承認される。 6 / 3
- 湯島麟祥院「臨濟録を読む会」。昭島昭和館にて龍沢僧堂の会へ参加。 6 / 6
- 宗禅寺禅センター、看板取付け。本堂須弥壇下、大片付け。 6 / 7
- 鎌倉、松ヶ岡文庫理事会。鎌倉春秋社で『建長寺―そのすべて』発刊に向けての相談。鎌倉でらこや総会。後、井上茶寮で懇親、帰山。 6 / 8
- 鎌倉塾第五回例会、鉢の木社長藤川護治さんの「和食あれこれ」 6 / 10
- 宗禅寺、フラメンコライブ。九時薬師講中二十人で支度。三時開演、二百八十人の参加、大盛況。片付け後打上げ、五十人。創建四百年事業第二弾。 6 / 11
- 庫裏二階、綾子ゾーンの片付け始める。 6 / 12
- 大阪、泉州てらこや生福寺にて、講演会七時から。三時に堺・南宗寺に田島堂博老師に相見。次の日、大阪あべのハルカス、東洋陶磁美術館。二時京都仏教稲門会。 6 / 13・14
- 寺、江戸時代の半鐘、思いがけず帰山。うれしくて、ありがたい。 6 / 15

宗禪寺日單 (副住)

- 青梅 一峰院小島義紹和尚住職就任のお祝い。羽村三ヶ寺、青梅東禪寺様、福生長徳寺様と祝宴 3 / 8
- 蘭溪道隆禪師生誕地巡拜の旅 建長寺開山大覚禪師の生誕地を巡る旅。実家の母親と共に参加。重慶の涪陵、成都など訪問。 3 / 11 ~ 16
- 彼岸早朝坐禅会。初日は巡拜の旅で欠席。 3 / 17 ~ 23
- 青梅玉泉寺 春の文化展特別展の白浪先生の作品をお預かりに 3 / 17
- 春の文化展搬入 3 / 18
- 宗禪寺春の文化展 3 / 19 ~ 21
- 総代会 文化展終了後、総代さんと会議。創建四〇〇年事業のこと。花祭りのこと。 3 / 21
- 谷中 瑠璃花と花音を連れて谷中へ。 3 / 25
- 消防 年度末の総会。 3 / 26
- 三島龍澤寺 不動尊祭への荷担。今年は

- 尊宿寮。 3 / 28
- 布教師会 本山建長寺にて布教師会の会議。今年の法話大会など。 3 / 29
- 東京三部部内会 青梅にて建長寺派東京教区第三部の集まり。正俊住職の宗務総長退任の慰労も兼ねて。 4 / 1
- 朝粥坐禅会 第一日曜日は朝粥坐禅会。段々と暖かくなってきました 4 / 3
- 宗禪寺花祭り 今年からお釈迦様の誕生日を盛大なお祝い。法話と法要後、檀信徒中根喜美子様一同による生田流箏の生演奏。本堂百人 4 / 8
- 住職研修会 山梨にて本山の住職研修会。マイナンバー制度、人権問題など講義を受ける。 4 / 11 ~ 12
- 消防 新しい班編成になってからの初めての訓練。動物公園駐車場で水出し訓練。 4 / 14
- 宗禪寺寺子屋委員会 文化展の反省、寺子屋教室。中野喜一さんによる「昭和の行商人」、島田文庫長から「宗禪寺史」執筆の編集方針の発表。 4 / 15
- 六本木ヒルズ 臨濟禪師没後一一五〇年

- の特別企画「禅ってなに？」の鼎談会を拜聴。 4 / 16
- 三島龍澤寺 入制接心へ。後藤榮山老師「坐禅儀」の提唱を久々に拜講。 4 / 18 ~ 19
- 建長寺竹の子子供会 毎年四月に行っている竹の子供会の加擔。竹細工用の竹の準備など。 4 / 22 ~ 23
- 西東京臨濟会 六月の研修会、ゴールデンウィークの熊本大地震救援托鉢のことを協議、案内状發送。 4 / 25
- 小田原市東際寺 先住職様の葬儀式加擔。現住様との本山でのご縁からお声をかけていただきました。 4 / 27
- 海老名市龍峰寺晋山式 建長寺前教学部長大西龍彦和尚様の晋山式に住職の代理にて随喜。 4 / 29
- 熊本地震救援托鉢 本日より一週間、各所に救援托鉢。十六名の和尚さんが集まってくれました。午前川崎地区、午後玉川・羽東地区を托鉢 4 / 30
- フラメンコ 六月のフラメンコライブの打ち合わせに三名来山。 4 / 30

- 谷中 瑠璃花と花音を連れて上野動物園・谷中へ。以前より動物に対する反応が出てきました。 5/2
- 熊本地震救援托鉢 昭島市広福寺様に集まって、昭島市内を一日托鉢。 5/5
- 熊本地震救援托鉢 午後から托鉢へ。青梅新町を歩く。 5/6
- 土地視察 総代さんと宗禅寺所有の土地を確認。市内、瑞穂、埼玉県。終わってから越生岩井屋さんで一献。 5/9
- 西東京臨済会 熊本地震救援托鉢のご喜捨を総計。 5/10
- 御詠歌春の巡拝 淑子さん杉本さんと秩父巡拝へ。 5/10
- 羽村チャリティゴルフ 初参加。皆様のおかげで無事終了。 5/11
- 消防役員会 車庫で五月～七月の行事を確認。 5/13
- 薬師講役員会 夜にお寺で役員会。お盆施餓鬼のこと、羽村灯笼流しのこと。 5/14
- 消防 結索訓練。西多摩衛生組合でロープワークと水出しの合同訓練。午前中

- 終わる。 5/15
- 臨済合同高等布教講習会 二年に一度の布教師への登竜門。二週間妙心寺にて缶詰め。法話作成と発表と試験。参加者五十名超える。 5/16
- 谷中興禅寺 施餓鬼法要のお手伝いに綾子さん出動。三五〇名。 5/22
- 消防 備品点検。消防本部、櫻澤団長以下車庫に上がり懇親。 5/30
- 宗禅寺寺子屋委員会 6/1
- 三島龍澤寺 毎年年に一回、後藤榮山老師をお囲みして、門下生が集まっています。 6/2
- 龍澤寺OB会 五日市廣徳寺様をOB会が来訪。幹事は谷中の父。 6/6
- フラメンコライブ 創建四〇〇年記念事業第二弾。 6/11
- 西東京臨済会研修会 昨年落慶した本山建長寺坐禅堂にて坐禅。管長猊下の提唱を聴講。 6/16
- 消防 晩、コミセンにて幹部研修会。鈴木雅英福生消防署警防課長様による「消防団の現状活動要領等について」。研修



- 後、車庫にて週末の水防訓練の打ち合わせ。 6/16
- 建長寺法話スペシャル 毎年六月に開催している法話会に参加。今年のテーマは「求不得苦。求めるものが手に入らない苦しみ」。 6/18
- 消防 水防訓練。宮ノ下運動公園と上水グラウンド。土囊。 6/19
- 熊本 西東京臨済会の熊本地震災害ボランティアへ。二泊三日、豪雨に見舞われてしまい、予定通りに活動できず残念。 6/20

文庫長だより 島田 秀男

宗禅寺禅センターでは、毎月一回俳句の会が開催されています。会員は九名で、与えられた課題をもとに俳句をつくり、当日持ち寄り会員による選句が行われています。それが終了すると、次回の日程とつぎのテーマについて話し合い解散します。

このような俳句が、川崎村でいつ頃から始められたのでしょうか。昨年の五月寺子屋教室で、福生市にお住まいの多田仁二先生をお呼びして「村の文化 俳諧から俳句へ―川崎や『玉汀』にふれて―」というテーマで講演をしていただきました。

今から約九〇年前の江戸時代後期に発行された俳諧雑誌に川崎村の「柳調りゅうてう」他九名の俳人の名前が載っているそうです。また、幕末の俳人としては、「平砂へいさ」という人物がいたともいいます。「柳調」や「平砂」は俳号ですから人物を特定することはむずかしいことですが、江戸時代後期には川崎村でも盛んに俳諧が行われていたことがわかります。

多摩地域では俳諧以外でも狂歌、和歌、漢詩、書立花、絵画などさまざまなジャンルの文化が村の上層農民を中心に行われていました。その背景には、政治社会が安定して経済活動が進展したことがあげられます。一八世紀後半になると村々には手工業、商業、金融業や土地などを経営する上層農民、豪農たちが、経営に必要な情報を都市から入手すると同時に、文化を村にもたらしたのです。

江戸時代の後半になると、飢饉や一揆の発生など村社会は不安定な状況になります。そこで、社会を安定させるために上層農民たちはさまざまな施策を講ずることはもちろん、文化を村の中で共有させることによつて村落の安定化のために力を注いだのです。多田先生は、それらを在村文化と名づけています。特に、俳諧は平易に受容できるため広く普及し、在村文化を象徴する文芸となつたと

いわれています。川崎村の地芝居もそのひとつであったと考えられています。

明治時代になると、川崎村には「蓬中舎ほうちゅうし」という結社(俳句の団体)を中心に盛んに句会が開催されてきました。蓬中舎は、初代が中村喜三郎(俳号は「壽村じゆそん」)二代目が雨倉久次郎(俳号は「壽蒼じゆそう」)です。

宗禅寺の山門脇には、句碑があります。「そうぜんじ便り」第五号に、中野喜さんがこの句碑について詳細に書かれていますので、ここでは簡単に紹介します。この句碑は、壽蒼が蓬中舎の二代目を引継いでから五十周年を迎えた記念に建立された碑です。句碑の表には、芭蕉と其角の句が刻まれていて、裏面に次のようになっています。

「限りなきものかざりや春の露」壽村

「五十年いづしか過ぎて今日の花」壽倉

また、中野喜さんがお書きになつた『傘壽の眩き』という本のなかの「川崎の俳人の句碑」には、宗禅寺の墓地等には、最も古いもので熊(島田熊次郎)の句碑をはじめ一〇基ほどが建てられていると述べられています。

西多摩村では、川崎の蓬中舎と羽村の松廼門まるものが合同で玉汀吟舎を結成し、大正八年に「玉汀ぎょてい」という俳句雑誌を刊行します。代表者の島田閑雲かんとん(禅林住職)は発刊の辞のなかで、目的は新旧を問わず、それらを総合した新しいものを目指すと言っています。新とは正岡子規らの俳句革新派の流れをいい、旧とは江戸時代から行われていた宗匠によつて主導された「月並つきなみ」を俳諧はいかいの流ながれを指します。このように、「玉汀」を中心に「二」の流れを模索し、新しい句を創造しようと苦悩しましたが、大正三年六〇号をもって休刊しました。しかし、その後も個々の俳人として句作が続けられていきました。

宗禅寺俳句の会も、その歴史のなかで伝統が受け継がれています。宗禅寺ではもつと俳句に親しんでもらおうと、

日本の戦後俳壇をリードしてきた、埼玉県にお住まいの金子兜太たうた先生の句碑「涙なし 蝶かんかんと 触れ合いて」完成を祝して、昨年の二月宗禅寺で俳句大会を開催しました。当日はたくさんの方々の参加をいただき盛大に催すことができました。

金子先生は、九五歳という、高齢でしたが、かくしゃくとして選句されていました。先生は、松尾芭蕉よりも小林茶を高く評価しています。茶が五七歳のときに、娘さんが死んで、そのときの句に、「螢来よわがこしらへし白露に」

自分は今、悲しみの中で無常の固まりの白露の玉を作つた。螢さん、来て、この白露をなめてください。いたわつてくださいと。

この句には、さとの死への悲しみと同時に、生きものに対するいたわりがあります。各地を漂白しながら本能のままに生き、生きものを愛した小林茶にとりわけひかれたと述べられています。そして、自らも「生きものの感覚」を大切にしているそうです。

また、四月十七日には、未来図(鍵和田柚子さん)の第七十九回吟行句会が宗禅寺で開催されました。

◆寺子屋委員会報告

昨年の九月以降、会合は今年の六月まで、途中春文化展の開催がありました。十回実施しました。内容は、来年の副住職の晋山式(住職になるための式)までに「宗禅寺史」を刊行するための原稿作成とのための勉強会です。

寺史という難しいものと思われがちです。そこで、なるべく皆さんに読んでもらえるような本にしていきたいと思っています。

また、寺子屋委員会では、一緒に勉強する方を募集しています。お気軽にお声をおかけください。

西東京臨済会熊本大地震救援 ボランティア活動

ゴールデンウィーク期間中に西東京臨済会有志の和尙にて熊本大地震の救援金の托鉢を行いました。羽村においても、川崎・玉川・羽東地区を廻り、沢山のご喜捨をお預かり致しました。お預かりしたご喜捨は約三六〇万円に上ります。最初に一〇〇万円を南阿蘇村の社会福祉協議会に寄付させていただきます。



南阿蘇村にて犠牲者が出たお宅にて供養の読経

托鉢後、五月半ばと六月上旬に有志の和尙一同が直接熊本に入り、現地の方々の状況などを見て回りました。まだ、ほとんど手つかずのままになっていて、場所も多く、今後継続的に

現地に入り、どのような支援の方法が良いのか、検討しながら活動を続けて参ります。私（副住職）めは過去二回の活動には都合がつかず不参加でしたが、六月後半にやっと現地入りすることができました。少しばかりですが、報告として掲載しておきます。

○六月二十日 曇りのち雨

早朝、宗禅寺に集合、出発。六時過ぎの便にて福岡へ。参加者は十四名。福岡よりレンタカーにて熊本入り。当日午後より作業に入る予定も、豪雨による避難勧告のため作業中止。皆で被災地の現状を見学。熊本城、益城町ボランティアセンターを訪問。供養の読経。雨のため通行止めの道路が多く、予定より時間を喰ってしまう。晩に集中的な豪雨。県内各所にて避難勧告発令。

○六月二十一日 雨時々曇り

豪雨の影響で午前中作業に入れず。南阿蘇村訪問。南阿蘇村では犠牲者が出た場所に献花台が設けられており、供養の読経をさせていただく。午後から作業に入れた。前日の豪雨にて土砂崩れが起きており、その対応へのお手伝い。土砂崩れの斜面へのブルーシート張り、個人宅敷地内の側溝掘

り、土嚢積みなど。 ○六月二十二日 雨

予定していた午前中の作業は避難勧告発令のためキャンセル。残念ながらそのまま福岡へ。途中、九州自動車道が雨のため通行止め。一般道にて何とか福岡へ。帰路に着く。

熊本市内中心部では地震の影響をさほど見ることができませんでしたが、益城町、南阿蘇村では傾いたアパートや崩落した大橋など手つかずの状態でありました。南阿蘇村は元々地盤が弱く今回の豪雨で新たな災害が発生しておりました。今後も予定と



崩落した阿蘇大橋現場。向こう側の斜面も土砂崩れにより原形をとどめていません。

相談しながら現地での活動を考えさせていただきます。托鉢にご協力をお願いいたします。御礼申し上げます。

建長寺開山蘭溪道隆 生誕地巡拝の旅

○三月十一日～十六日
○訪問した場所

- ◆重慶市涪陵区萬松村
- ◆涪陵・法雨寺
- ◆大足仏教石窟群
- ◆遂寧・青磁博物館
- ◆成都・大慈寺

法政大学講師の彭丹先生らによる永年の調査により開山蘭溪道隆禪師の生誕地が判明し、管長猥下を団長とする公式の訪問団に同伴させていただきました。

生誕の地は重慶市の涪陵（ふりよう）区萬松村という場所です。村の中に芝蘭川と漁溪川が合流する場所があり、故郷の二つの川の名前をいただき、「（芝）蘭（漁）溪」という僧名になったようです。蘭溪道隆禪師は成都にある大慈寺というお寺で得度（とくど）僧侶にな



萬松村観音寺での巡拝記念法要。直前には大規模な爆竹にて歓迎を受けました。

宗禅寺観音募金

(平成28年3月11日～平成28年6月28日)

皆様からの募金、お賽銭をこのように使っています。ご協力ありがとうございます。

前回繰越	14,171円	
収 入	106,731円	
支 出	110,000円	
内 訳	50,000円	熊本地震義援金
	20,000円	羽村市社会福祉協議会
	20,000円	あしなが東日本大震災遺児支援募金
	20,000円	建長寺観音募金
繰 越	10,902円	

るための出家の儀式)をしており、大慈寺でも大歓迎を受け、すでに開山禪師の像が安置してありました。

重慶は現在、省には属しておらず、政府直轄の土地だそうです。地理的に四川省に近く、料理は山椒と唐辛子でとても辛いもので、三日目には胃腸の調子を崩してしまいました。

歓迎の際の爆竹もまたすごく、異国の文化に触れ、充実した旅を送ることができました。今回の旅もそうでしたが、一般の方も参加できる旅行です。機会がありましたら、案内させていただきます。今度は是非一緒に参りましょう。

宗禅寺毎月の活動

- 朝粥坐禅会……毎月第一日曜日 朝6時～8時半 一日の始まりに坐禅。爽やかな空気が自分の心をついに 7/3 8/7 9/4 10/2
- 土曜坐禅会……毎週土曜日 子供：夕6時～7時 大人：7時半～9時半 日頃の忙しさを忘れ、自分の心を落ち着かせます。※8月6日は羽村灯籠流しのためお休み致します。
- お盆早朝坐禅会……7月13日～16日毎朝6時より。7時頃終了。朝の新鮮な空気を体全体で味わいます。
- 写 経 会……毎月1日、11日、21日、1時～3時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。
- 御 詠 歌……毎月第1・3火曜日 1時半～3時
- 木彫教室……毎月第一・第三土曜日 13時～16時まで 講師：新井達矢先生 場所：宗禅寺禅センター 仏像や能面を自分で作成します。月謝5000円(道具、材料費は要別途)
- 俳句教室……毎月1回、適宜。問い合わせ先：中野つたえ ☎554-2444
- 尺八吹禅の会……毎月第1、第3月曜 夜7時半～9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合わせ：坂井陵童 ☎554-3273
- 女性サンガの会・薬師講・寺小屋委員会・護持会 —活動中です—
- 宗禅寺禅センターをお使い下さい。